

J 1 0 0 A編入試験

名前\_\_\_\_\_

1. ( ) には漢字の読み方をひらがなで、□には漢字を書いて下さい。

(1) 奨学金を申し込むために先生に推薦状を書いていただいた。  
( ) ( )

(2) この□□の□□を来年までに論文にまとめる。  
ちようさ けっか ( )

(3) 私の友人山田さんの□□は、□□□□だ。  
( ) せんこう でんきこうがく

(4) □□が苦手なので、一生懸命練習した。  
けいご ( ) ( )

(5) 自分たちの経験をもとに□□□□について□□  
( ) こくさいか とうろん  
した。

(6) 彼女は上司に叱られて □□を流していた。  
( ) ( ) ( られて) なみだ ( して)

2. 次の ( ) の中の一番適当な言葉に○をつけて下さい。

(1) リー：パクさん、今晚、山田さんと「さむらい」に食べに行くんだけど一緒に行かない？

パク：ありがとう。(ここ・そこ・あそこ・どこ)の天ぷらはおいしいから一緒に行きたいんだけど、今晚はちょっと……。

(2) 前田：安田さん、昨日、京都に引っ越した青山さんに会ったよ。

安田：(この・その・あの・どの)青山さんという人、だれ？

前田：ほら、(この・その・あの・どの)人。歴史のクラスでいつも安田さんの隣に座っていた人。

安田：ああ、(この・その・あの・どの)青山さん。元気だった？

3. 次の ( ) の中の一番適当な言葉に○をつけて下さい。

(1) 加藤先生の講義を聞きに行った。

先生が(話した・お話になった・お話しした)日本の歴史の話は面白かった。

(2) 講義の後で、先生に(会う・お会いになる・お目にかかる)ことができた。

その時、色々(聞いた・お聞きになった・お聞きした)。

4. 次の文を読んで causative passive の文を作って下さい。

(1) 子供のころ、母にいつもやさいを\_\_\_\_\_いやだった。

(2) 子供のころ、毎日2時間も勉強を\_\_\_\_\_いやだった。

(3) カラオケ・パーティーでたくさん歌を\_\_\_\_\_。

(4) 行きたくないのに、ジャズ・コンサートに\_\_\_\_\_。

(5) 雨が降っている中ここに\_\_\_\_\_すっかりぬれてしまった。

5. 次の文を完成させて下さい。

(1) もう寝たいけど、明日試験があるから\_\_\_\_\_わけにはいきません。

(2) 今日中に終わらせるのはちょっと大変だが\_\_\_\_\_わけではない。

(3) 明日は、発表をしなければならないから\_\_\_\_\_わけにはいかない。

6.下の□の中から一番適当な言葉を選んで\_\_\_\_\_に書いて下さい。  
Tense に注意して下さい。

ー そうな気がする	ー に気をつける	ー ような気がする
ー が気になる	ー に気がつく	ー を気にする

- (1) 今朝、アパートを出る時、何かを忘れた\_\_\_\_\_が、今日しめ  
きりのレポートを持って来なかったこと\_\_\_\_\_。
- (2) 目上の人と話す時は言葉\_\_\_\_\_。
- (3) 今日の試験はよくできたと思う。いい成績が取れ\_\_\_\_\_。
- (4) 家を出てから、部屋の窓を閉めたかどうか\_\_\_\_\_。
- (5) 友達は先生が腹をたてていらしたの\_\_\_\_\_。

7.次の( )の中から一番適当な言い方を選んで○をつけて下さい。

- (1) A:旅行でお金を使いすぎちゃった。  
B:じゃあ、アルバイトをする(はずな・より仕方がない・に違いない) んじ  
ゃない。
- (2) クラスでは教えないような日本語を使う学生がいる。そういう学生は日本  
人の友達がいる(より仕方がない・に越したことはない・に違いない)。
- (3) 寒い時は温かいココア(はずだ・に違いない・に限る)。
- (4) ホームステイは、留学生にとっても、ホストファミリーにとってもいい経  
験になる(はずだ・より仕方がない・に限る)。

8.次の文を完成して下さい。

- (1) 毎日忙しくて、\_\_\_\_\_ほどだ。
- (2) \_\_\_\_\_ように毎日ジョギングをしている。
- (3) 寝坊してしまったが、クラスには\_\_\_\_\_済んだ。

(4) 日本へ留学\_\_\_\_\_ことは\_\_\_\_\_が、卒業がおくれるのはいやだ。

(5) ずいぶん日本語が読めるようになりました。といっても\_\_\_\_\_

9. 次の読み物を読んで後の質問に答えて下さい。

ある日本人の大学教授がオーストラリアで研究をしている時、大学のある英語のクラスを見に行ったそうだ。その時、数人の学生が作文をチェックしてもらおうと並んで待っていて、その中に日本人の学生もいた。長い間待たされて、やっと「××さんのはどうかな」と先生に質問されると、この日本人の学生は何も言わないで、机の上に作文をぽんとおき、机をトントンとたたいたそうだ。オーストラリア人の先生は驚いて、「そのトントンというのは何なの？」とおこったように言いながら、作文をみてやっていたそうだ。

それを見ていた日本人の大学教授は、コミュニケーションの基本的なルールを学んでほしいと思ったそうだ。それが、文化摩擦をさける一つの方法だからだ。

この話を聞いて、私は父から聞いた祖父の話を思い出した。祖父の生きていた頃、日本語はまだ、住んでいる土地によってずいぶん違っていたそうだ。それで、祖父は言葉の違う人と話す時は自分が知っている一番ていねいな言葉で話すように子供たちに言ったそうだ。このオーストラリアで何も言わずに作文を机においた学生も、日本でだったら、先生にそんな失礼なことはしなかっただろう。「お願いします」と言って、作文をていねいに机の上においたに違いない。だから、英語がまだあまり上手に話せないのなら、日本でするようにすればよかったのではないかと思う。

カルチャー・ショック、異文化、文化摩擦などという言葉が教科書で学んだ。外国語を勉強しようとする時、このような言葉によく出会う。外国語で話す場合はコミュニケーションの問題が文化の違いの問題だと考えられることが多い。しかし、実際には、その問題の多くは母国語で話している時にもあるのではないだろうか。だから、母国語でコミュニケーションが上手な人は外国語でもコミュニケーションが上手なのではないだろうか。

母国語で基本的なコミュニケーションのルールを若いうちに学べば、この日本人の大学教授が言っているように国際的な文化摩擦がさけられるかもしれない。

ぽん : a way of throwing something down carelessly

おく : to place

トントン : a knocking, tapping sound

基本 : basic

ルール : rule

母国語 : mother tongue

次の文を読んで、読み物と合っていれば○、違っていたら×を書いて下さい。

- ( ) 日本人の大学教授はオーストラリアの大学で英語のクラスを見学したことがある。
- ( ) 日本人の大学教授が見た日本人留学生とオーストラリア人の英語の先生とのコミュニケーションには問題がない。
- ( ) 日本人の大学教授が見た日本人留学生はコミュニケーションの基本的なルールが分かっていないようだ。
- ( ) 文化摩擦はさけることができないと、この日本人の大学教授は思っている。
- ( ) この文を書いた人のおじいさんは、言葉が分からなくてもいねいに話そうとしている気持ちは伝わるはずだと思っていたようだ。
- ( ) この人はおじいさんはコミュニケーションの基本的なルールを知っていたと思っている。
- ( ) この文を書いた人は、母国語でのコミュニケーションと外国語でのコミュニケーションは別だと考えている。
- ( ) この文を書いた人は、日本人の大学教授の文化摩擦のさけ方についての意見に賛成だ。